

伊那民報

発行
日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
有線も(72)2465
FAX (72)3823

被災地 大震災 救援・復興へボランティア急募

東日本大震災から五〇日たちました。災害の全ぼうを一日も早く把握することが求められると同時に、復興のためにいつそ大きな支援が必要とされています。

一方、「安全神話」からきっぱり抜け出す「原子力行政の転換」を求める世論も日増しに大きくなっています。(編集部)

日本共産党伊那市議団と伊那市委員会は、大震災被災地の東北地方3県と栄村への救援ボランティアを、現地の要請に基づき、数次にわたり派遣することを決めました。

第1次隊は、派遣先はまだ未定ですが、きたる5月18日〜20日に派遣します。第2次隊以降の日程などは未定です。ご参加いただける方は事前に登録が必要ですので、党事務所または市議宅に至急ご連絡ください。

頼まれ仕事でなく

苦難軽減へ自発的活動

交通手段や宿泊、食事など全て「自己完結型」になります。今回は集団での活動になり、そこでのルールにそった行動に協力ください。

おもな仕事は、支援物資のお届け隊、泥出し、清掃などです。体

力的にも厳しい仕事になります。



ボランティアがつけるワッペン

服装や持ち物

作業しやすい服装、防寒着、軍手、ゴム手袋、マスク(あれば防塵)、タオル、長靴、作業用雨合羽(上下)、着替え、常備薬、携帯電話、携帯ラジオ、懐中電灯、水筒、洗面用具、傘、健康保険証、運転免許証、

提言 安全最優先の原子力行政に転換を

二〇年あまり、チェルノブイリ原発事故の汚染地帯に住む人々とつきあってきました。その多くはほとんど電気は使わず自然の中で暮らす農民です。原発がいったん事故を起

ヘルメット。

また同時に救援物資や義援金も届けますのでお寄せください。連絡先 党上伊那地区委員会

72・2465
また党伊那市議まで

飯島 光豊 72・8487
前沢けい子 76・2391
柳川ひろみ 76・5770

お礼とご報告

被災者への義援金や救援物資のご協力、本当にありがとうございます。4月24日までの状況を報告いたします。

上伊那全体で義援金431件 1,951,205円
うち伊那市 743,519円

おコメ、生活用品もたくさん寄せられ
栄村 26万円 福島県二本松市 15万円
宮城県 48万円 他は県・中央委員会を通じて各所へ随時届けられています。(担当 武田)

地蜂

今回の大地震と原発事故についての防災対策はどうだったのか。津波研究家の山下文男氏(元日本共産党文化部長)は多くの著書で津波は四〇メートルもの高さで襲ってくることを警告していた。他の研究者も同じ警告をしていたが、防災対策には活かされなかった▼原発事故については明らかに人災である。原発が大津波による冷却機能喪失で炉心溶融に至ると国会で日本共産党の吉井英勝議員が二〇〇六年に追及し、昨年は非常用の発電機の破壊まで予見して追及していたが、原子力安全委員長も原子力安全・保安院長も「現実には起こらない」と対応を拒否していたのだ▼毎日テレビに登場して「安全です」とコメントを繰り返しているのは、東大中心にその多くの学者が電力会社から莫大な研究費をもらい原発推進の研究をしてきた御用学者たちだ。原発の危険性を警告してきた立命館大学の安斎育郎先生に以前、伊那の講演会で話を聞いた。東大時代には電力会社から「安斎担当者」が派遣されてきていて、先生が講演会で話した内容はすべて学部長と会社に報告され、また学部内でも冷や飯を食わされ、立命館大に出たということだった。京都大学の原子炉実験所で原発批判してきた「六人組」といわれる研究者たちも研究費はもらえず助手のまま昇進もなく退職している。しかし今、国民は「安全神話」を疑い始め、これらの学者たちの声に耳を傾け始めている▼五月四日には伊那市の非核市民の会が地震・原発の緊急学習会を開く。人類のクライシス(危機)を克服できるのは、クライシスのもう一つの意味である「転換」しかない。人類の創り出した核兵器と原発を廃棄する転換を急ぎ行動から始めたい。

富県 小牧 崇

こすと、その恩恵をこうむっている大都市の住民よりも、自然の中で暮らす地方の住民に牙をむきます。今回の原発震災も、被害は大消費地東京都(次ページへ)

(1ページから)ではなく、東京電力の管内でもない福島県の農民や漁民に集中するのではないでしようか。原子力は「弱い人たちを踏み台にする」ことによって成り立つエネルギーだどつくづく思います。

さて、チェルノブイリの汚染地帯は、原発事故により大量の放射能が放出された時、風下に位置する地域に広がりました。最大の汚染地帯は原発から100〜200キロ離れたベラルーシの田園地帯です。浜岡を例にするとちようど私たちが暮らすこの伊那谷がその100キロ圏に相当します。しかも浜岡原発は、いつ起こってもおかしくないといわれている東海地震の震源の真上にあるのです。

私は「チェルノブイリ」とつきあい始めた頃放射線測定器を購入し、以後二〇年あまり頭のどこかに「浜岡」があつて自室に置いた測定器を止めることはありませんでした。幸い現在に至るまで「異常」のサインは出ていません。早く安心してこの測定器を止められるようになってほしいと願っています。

(チェルノブイリ救援・中部)



東日本大震災

被災者家族となつて

西箕輪 荒 恵子

地震・津波・原発事故と未曾有の大災害は全世界の人びとを震撼させました。南相馬市と仙台市出身の私たちは被災者家族となり安否確認も出来ずに過ごした数日間。

津波では親戚、友人、知人が犠牲となり、ふる里が廃墟と化した。大自然の炸裂を前に茫然自失、なす術がない。原発から逃れて北海道、新潟、群馬、長野へと避難している兄弟家族。我家には姪夫妻が散々な目に遭いながら辿りついた。月七万円の住宅ローンの支払いはどうなる？福島原発から15km圏内の自宅に思いを馳せながら、怒りを押し殺し現実



スーパーの前で被災者救援募金を訴える
新日本婦人の会伊那支部のみなさん

の厳しさと向き合っている。「自然に対して謙虚であらねばならぬ」の言葉。本当にそうである。安全神話はどこへ行つた!

四月二十日付信毎に掲載された共同通信編集委員杉田弘毅氏の「科学技術立国のおごり」―大震災・原発日本を論じる世界―と題する記事を興味深く読ませていただいたが、アメリカの政治評論家某氏は、日本で始まった自発的な団結の動きや、独創的な被災者支援に着目し、「改革とは上からではなく、下から起きるものだ」と断言。「民衆主導の変革の到来を予想している。」と結んでいます。

お風呂には入っているだろうか、温かいうどんを食べさせたい、思いは被災地へ飛んでいる。五月の連休を利用して避難所訪問しよう、避難所ぐらしをしている高野町議(女川)へ連絡。「何欲しい?」「なんにもいらねえが顔見せでけろ!」との事。ガレキの山を少しでも片付けし、とにかく被災者の生の声を一人でも多く聴いてこよう、絵手紙で代筆し「現地からの声」コーナーを



緊急学習会 地震・原発の危険 を考える

講師 関根一昭先生
(埼玉県の高校理科教師)

関根先生は、今回の大地震と運動して内陸直下型の大地震が長野県で起きる可能性も指摘しています。

日時 5月4日(休日)

場所 午後1時半〜4時半
いなつせ5階会議室

参加費 1000円
(含アキスト代)

主催：非核平和都市宣言をさらにすすめる
伊那市民の会

連絡先 宮下 (72-9411)

準備しよう、いま求められている事は何かを明らかにし、政府と東電の責任で一刻も早く、被災の全容を解明しよう。真の救援を心からお願ひしたい。浜岡の即時停止は緊急に。そして、義援金は、全額被災者個人に配分すること等、急いで欲しい。補償金、義援金配分で新たな差別が生じないよう、政府の対応が問われている。生きる希望の火を消さないで!



ご支援、ご協力に心からお礼申し上げます

このたびの一斉地方選挙へのご支援、ご協力に心から感謝致します。住民のくらし・福祉の充実、災害対策などの公約実現に引き続き奮闘します。今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

- 県議選 当選 小林伸陽 (上伊那郡区) 林 奉文 (駒ヶ根市区)
- 駒ヶ根市議選 当選 坂本裕彦 当選 竹村誉
- 辰野町議選 当選 根橋俊夫 当選 永原良子
- 箕輪町議選 当選 松本五郎 当選 岡田建一朗
- 南箕輪村議選 当選 久保村義輝 三沢澄子

四月二十五日 日本共産党上伊那地区委員会

同 伊那市委員会



聞くこと

前沢けい子

議員の仕事のひとつに様々な相談事がある。道路の補修、借金の相談、税金の滞納、医療や介護、家の貸借や隣地境界のいざこざなど、様々な相談が持ち込まれる。その中でも最近増えていると感じるのは、心の問題です。

不登校やいじめ、パニック障がい、様々な発達障がいや

精神障がいを抱えた人の話をじっくり聞いてみると、その人を無条件に信用してゆっくり話を聞いてくれる人が今までいなかったことがこもこも語られる。心の問題を抱えた

多くの人が差別的発言を受けたり、人格を傷つけられたりしていることもわかった。心理学の専門家でもない私にできることは多くはないが、受け止めて聞いてあげるだけでも、帰る頃には笑顔が戻ってくることも多い。

伊那の歴史散歩 44

「辰野事件」にふれてのこと

3、東京高裁全員無罪判決！

この年(一九七二年)12月1日、午前10時、東京高裁から被告13名全員にくだされた判決。私の当時のポケット版「歴史手帳」この日のメモをひもとくと、

①「辰野事件」高裁判決、無罪!! 全員。祝電。〔注①〕

②坂井喜夫氏と電話で連絡。〔注②〕

③林百郎・原茂氏選対事務所顔出し車、陣中見舞い。〔注③〕

④車で西村幸雄氏宅細君に挨拶。〔注④〕

⑤田中病院前で、村田細君、西村幸雄氏と握手。：雪：。〔注⑤〕

このメモを見ても、よく思い出せない点が多い。もう20年前のことなのだ。村田美芳君は、伊那町内西町の高台、城南町にあったし、西村さんは、西町・春日町第一の南端、「西村電気工事商会」の現在事務所(旧民商)の場所にあったと思う。またその頃のわが家では、やっと2年前の3月に、テレビは白黒からようやくカラーにした。また同時に電気洗濯機も初めて入ったという時期でもあった。

私はこの日の「辰野事件」高裁の判決のニュースも何によつて知ったか、覚えていない!いつものようにますみが丘の伊那西小に、南小出の自宅↓下島↓伊那町電車、春日町↓中小沢バス、中小沢お宮のそばの山道を歩いて到着。教頭に出張届けを出し、クラスの子ども

たちのことを頼んで町からタクシーを呼び、上伊那図書館(教員組合書記局)に行ったはずである。

書記局備えつけのラジオで、刻々入るニュースを聞いて、専従の梅垣さん(書記)とともに、「よかったね。」と話しあったにちがいない。

前記冒頭の、小生のメモの注解左の通り。

〔注①〕祝電は、別項にメモがあった。

ナガイタタカイノシヨウリ、オメデトウゴザイマシタ、ゴクローサマデシタ、ケンキョウソカミイナシブ

辰野町辰野事件対策協議会宛

〔注②〕坂井喜夫氏。当時、伊那市教育委員会委員長・上伊那地教委連絡会委員長、上伊那護憲連事務所長でもあった。また、第39回県教組大会(6・10於長野市勤福センター)での、私の「辰野事件支援特別決議」の提案説明を傍聴していたのである。

〔注③〕第33回総選挙は公示され(11・20)選挙戦の真つ最中であつた。12・10投票で、

日本社会党・原茂と日本共産党・林百郎はともに当選した。このとき、自民271、社会118、共産38、公明29、無所属14で、「社会復調、共産躍進」といわれた。七転び八起き林百郎さんは、5万7831票。この国会で議員団副団長になつて

いる。「これら国政選挙に対して、上伊那地区評(地区労)に後から入つた教組には、中立宣言があつたわけではないが、

政党支持の自由」というか、革新政党支持、社共両党支持が暗黙の線であつたのか、その経過はよくわからない。」(「上伊那地区評十周年記念誌」の「座談会・上伊那労働運動十年の歩み」でのG氏発言)

(つづく)

西春近 平松 規 (故人)



ぎっくり腰闘病記

上の原 山村 茜

それは旧年十一月半ばのことだった。知人の九十七才の老女が娘さんの車で来宿。その人を抱き起こそうと後ろから力を入れて引つ張った瞬間、ギクツときた。初めてだったけれど「ぎっくり腰」だとわかった。激痛ではなかったので翌日から三日間、つまっていた用事をこなしした。後期高齢者医療制度廃止の署名20軒、隣組長として配り物10軒、漬け物など。

医者へ行ったのは四日目だった。「すぐ休めば一週間もたてば痛みは取れる」と聞いたけれど後の祭りだった。A病院の先生は、レントゲンをとって「背骨が曲がってしまっている。」と言った。思いがけないその言葉は、私をうちのめした。先生は「食品栄養表」を渡して説明してくれた。それを見ながら「冷蔵庫に田作りがあるからあれを煎つておやつに食べよう」と考えていた。更に先生は「貴女が重いものを持たなくても、早晚こうなっていたでしょう。」と言った。少し前、壮年のMさんが「ピンポン玉を拾おうと腕を伸ばしたらギクツときたんだよ。」と言ったのを思い出した。A病院での一度のカルシウム注射、腰の温め、自転車ぎの治療が三月まで続いた。

そんなある日、隣の待合椅子にいた中年の女の人がこう言った。「私ね、これで四年ここに通っているのよ。」「え！四年？」私は絶句した。注射の後、看護師さんに小声で「あのねえ、いつまでこの注射続けるの。」と聞いた。「もう一つと続けるのよ。」こともなげの返事。「えー、それじゃ死ぬまでつてこと？」その時、ひそかに「病院を去るよ」と思った。

周りの人に聞くと、近くのB病院にも整形外科があるという。B先生は、レントゲンをとってみながら「骨が曲がっている」とは決して言わなかった。触診して手足を動かして「きょう出す薬がどう効くか知りたいから一週間たったら来て下さい。」と言った。まだ長く立っているとジーンと熱くなつて痛い。腰を落として作業しても痛くなる。初めのうちはベッドから起き上がるのが難行苦行だった。床のゴミを拾うのも大変だった。しかし、今は楽々起き上がれてテレビ体操ができる。尤も、朝早くトイレに行くときのヨロヨロは、絶対人に見せられない。「五十肩の時だつて長くかかったものに。あれを思えば順調よ」と自分に言い聞かせているこの頃である。



私のたのしみ

柳青む

上新田 原 弘

例年になく寒かった三月も過ぎ四月半ば、花も開き川辺の柳も青くなってきた。その昔中学二年頃だったと思うが、大野田君という友人が「原、これを」といつて啄木の『一握の砂』か『悲しき玩具』だったか忘れたが詩集を渡され、当時文学のぶの字も知らない自分に、「啄木は大したものだ」と言っていた。

やがて二、三年経って何となく啄木の歌心が分かったような気がした頃、今度は「啄木もなんだが、近頃俺はこれが気に入った」と言つて横光利一の本をくれたが、どこが感動

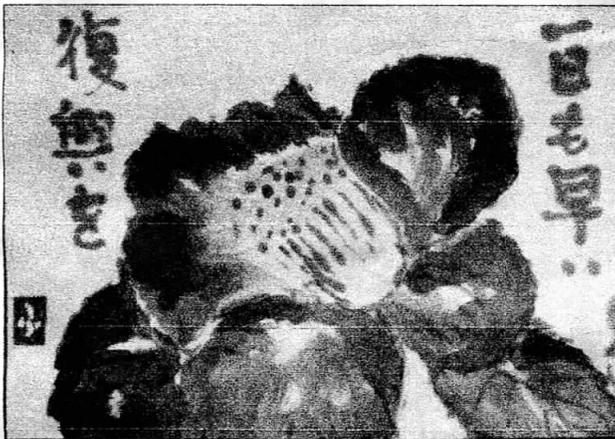
したのか気に入ったのかさっぱり分からないまま幾十年か過ぎ、他の友人と三人で話をしていた時、その友人がふと大野田君に啄木の詩の中でどれが一番気に入ったかと聞いたところ、「やはらかに柳あをめる北上の岸辺目に見ゆ泣けとごとくに」かな。」と言った。

それから又十数年が過ぎ、彼は六十才でこの世を去った。爾来この時期になつて三峯川辺りの土手を歩き、河原の柳の青くなつてくるのを見つと彼の面影と重なり、自然に口をひいて出るようになり今日に至つてい

やはらかに柳あをめる北上の岸辺目に見ゆ泣けとごとくに

絵手紙

長谷 中島 文子



催し案内

※憲法9条を守る上伊那教職員の集い
5月3日(火) 13:30~ 坂下公会堂

※さわやかウオーキング
とき 5月10日(火) 午前中
ところ 宮田村史跡北の城 9:50集合
主催 上伊那医療生協健康づくり委員会
連絡先 090-5552-8497
(下平)

※手良9条の会
5月28日(土) 19:00~ 手良いこいの家